

# みやぎの 林業だより

## 目 次

### 特 集

みやぎ森林・林業未来創造カレッジだより .....5~6

### トピックス

一般社団法人吉田愛林公益会が林野庁長官賞を受賞されました... 1

林道「登米東和線」の開通について ..... 1

くりはら de 苔アート展 2024 の開催 ..... 2

「みやぎバットの森植樹祭」を開催しました ..... 2

全国林業試験研究機関協議会

「第57回森林・林業技術シンポジウム」の開催報告 ..... 3

### シリーズ

あつまれ!みやぎの森林人(もりびと)!「大宮 麻衣さん(津山町)」... 4

### 各種取組

..... 7

### お知らせ・案内

春の山火事に御注意を! ..... 10

木質バイオマスを含む再生エネを活用し、地域課題の解決を目指す方の事業費を支援します! ... 10

みやぎ全育つーしん Vol.2 ..... 11

### 市 況

木材市況の動向・特産市況の動向 ..... 12



令和6年3月25日  
発 行



◀みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら

232号

第48回全国育樹祭 ポスター原画

—— 伐採の届け出・森林の新規所有の届け出は、市町村へ ——

**一般社団法人吉田愛林公益会が  
林野庁長官賞を受賞されました**

第六十二回全国林業経営推奨行事(公益財団法人大日本山林会主催)において、一般社団法人吉田愛林公益会(黒川郡大和町)が林野庁長官賞を受賞し、先日、秋篠宮皇嗣殿下から賞状を賜りました。本行事は森林の適正な管理並びに林業の技術及び経営の改善に努めている経営体を顕彰するもので昭和三十七年度から行われており、今回は全国から二十八団体が表彰を受けました。



直営の幼令林  
奥にはセツ森が見えます

吉田愛林公益会は、昭和三十五年の設立以来、林業経営に尽力され、現在は直営林と分収林を合わせて約二千九百三十

ヘクターを経営しています。経営に当たっては直営作業班員による丁寧な育林を行うとともに、森林経営計画に基づき、主伐及び再造林を計画的に行っています。

これらの林業経営で得られた収益による地域への貢献は大きく、地域内の社会福祉団体や山林パトロール活動への助成を行っているほか、地域内の世代間交流を図るための運動会の開催の際も助成を行っており、吉田地区の活性化のために欠かせない存在となっています。今後とも、吉田地区活性化の中心的な存在として、益々の御活躍を期待しております。



受賞後記念写真  
大日本山林会 永田会長を囲んで

(仙台地方振興事務所)

**林道「登米東和線」の  
開通について**

県では、登米市内の旧登米町と旧東和町を結ぶ林道である「登米東和線」(とよまとうわせん)の開設事業を平成二十一年から行っており、今年の春の開通を目指して最後の工事を行っています。

この林道の開通により、今まで大きく迂回する必要があった県道志津川登米線と国道三九八号線が直接繋がり、地域の生活環境の利便性や森林からの木材



林道位置図

の運搬効率が大きく向上します。林道の中間地点には登米森林公園があり、観光やレクリエーションにも便利な道になるように計画されて工事が進められてきました。

登米森林公園はキャンプ場や森林セラピーの場としても知られ、近年ではNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」のロケ地にも使われるなど、見どころが多く、県内でも有数の自然と触れ合い、満喫することのできる公園となっています。

公園へのアクセスも含めて様々な用途に使える道として整備されてきた林道ですので、開通後は是非お立ち寄りください。



もうすぐ開通する林道「登米東和線」

# くりはらde苔アート展 2024の開催

栗原地域事務所では、苔の産地化を目指している「くりはらの苔」の魅力を発信し、苔の美しさ・たくましさを意識する空間の提供と苔文化の定着を図るため、昨年に続き「くりはらde苔アート展」を開催しました。

特に今回から、「苔の産地化」に加え、「聖地化」も新たな方向性として位置づけたことから、「苔ファンの裾野を広げよう」として開催期間、苔アート作製教室参加定員とも昨年の約三倍に拡大し開催しました。

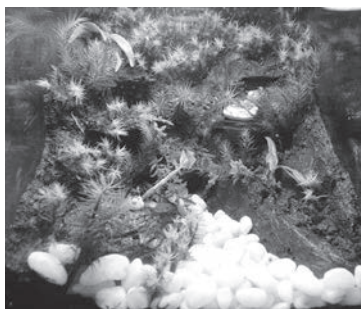
会場には、栗原市のマスコットキャラクター「ねじりほんによ」を苔で作製した苔オブ



苔を使い作製した苔オブジェ「苔りほんによ」

ジェ「苔りほんによ」の展示や、昨年八月に開催された「杜のユケリウムコンテスト」の入賞作品の写真展示、一般公募作品を含め約九十点を集めた「苔テラリウム」作品の展示のほか、地元の写真クラブの協力による「苔だけの写真展」を開催しました。また、苔玉と苔テラリウムの「苔アート作製教室」を二十コース設けるなど、「苔の聖地化」に向けたアクションを起こすことができました。

なお、「くりはらの苔」のPRとして、本年六月に富士山麓で開催される「苔祭りin樹海」への出展も予定しており、苔のネットワークを足がかりとして「産地化」と「聖地化」を同時に進めていくこととしています。



苔テラリウム  
自然の風景をテラリウムの中のガラス空間に凝縮した作品が多く出展されました

(北部地方振興事務所  
栗原地域事務所)

# 「みやぎバットの森植樹祭」 を開催しました

県では、平成十七年にプロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」が本県に誕生したことを契機に、同球団の活躍及び地域に密着した野球文化とみどりを育む文化の末永い隆盛を願い、「みやぎバットの森植樹祭」を毎年県内各地で開催し、地域の方々との協働により、バットの原木となるアオダモを主とした広葉樹の森づくりを行っていきます。

今年度は、十七回目となる当植樹祭を十二月十六日(土)に岩沼市のグリーンピア岩沼内において開催しました。当日は雨上がりのあいにくの天候とはなりましたが、式典に続いて植樹祭においては、代表者による記念植樹の終了後に市内のスポーツ少年団など約百人が参加した植樹活動が行われ、用意した百本のアオダモの苗木が一本一本丁寧に植えられました。

植樹祭終了後には、岩沼市総合体育館を会場として楽天野球団のアカデミーコーチ二名による野球教室が開催されました。

コーチより基本から分かりやすく丁寧な指導を受けたスポーツ少年団の子どもたちは、憧れのプロ野球のコーチを前にして、少し緊張しながらも最後まで熱心に練習に励みました。



集合写真



植樹活動の状況

(自然保護課)

**全国林業試験研究機関協議会  
『第五十七回森林・林業技術  
シンポジウム』の開催報告**

本協議会は、林業試験研究に携わる者の連携を密にし、会員相互の親睦とその資質向上を図り、林業技術の発展に寄与することを目的に、昭和四十二年四月に設立されました。会員は各都道府県林業関係試験研究機関（以下「公設試」という。）の五十一機関と学識経験者の三機関（林野庁森林整備部研究指導課、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所、同研究所林木育種センター）の五十四機関で、公設試からの年会費（二万八千円）と林業関係団体からの協賛金で運営され、会長県が事務局を担っています。全国八ブロックとブロック内の輪番制となっており東北ブロックは九十六年周期で担当することになります。

本県は令和五、六年度に会長県を担当しており、本協議会の最大イベントである森林・林業技術シンポジウムを令和六年一月十八日に東京大学弥生講堂一糸ホールで開催しました。

シンポジウムでは、公設試の研究員による研究発表五課題のほか、永年にわたり試験・研究業務及び支援に携わり、森林・林業及び木材産業に関する多くの功績や技術の向上・進展、研究成果の普及などに多大な貢献があった研究員及び研究補助員に贈られる「研究功績賞」及び「研究支援功労賞」の授賞式、森林総合研究所宇都木玄（はじめ）研究ディレクターによる特別講演「弱点はどこだー林業全体を見まわして、循環的な木材生産を目指すー」を行いました。

今回は令和元年度以来四年ぶりとなる会場開催とウェブによるハイブリッド方式を採用しました。会場とウェブ参加合わせて四百十八名となり、本県からも多くの皆様に参加いただきました。不慣れた業務でしたが、試験研究部、普及・研修部、副会長県の応援を得ながら無事盛会裡に開催することができました。

本協議会は多くの会員を有していることから、シンポジウムの開催に当たっては、三回の役員会を開いて役員ご意思統一や会員への周知を図りました。

第一回の役員会は令和五年六月三十日に都道府県センター

（東京都）で開催し、シンポジウムの開催日・場所・方法、研究発表の推薦方法、研究功績賞及び研究支援功労賞対象者の推薦や審査のスケジュールなどを確認しました。シンポジウムとその前日に行う通常総会を会場とウェブのハイブリッド方式とする計画としたことから、役員会でも試験的に自前でウェブ配信を行いました。想像以上に接続トラブルが発生したことから本番は専門業者に委託しました。

会場、役員、会議全てが初めての業務は、相当なプレッシャーを感じるものでした。会員名簿の更新や以前の状況を理解するなど、第一回役員会まで



を実現するための森林づくり』及びテーマに則した研究発表等の推薦や特別講演の依頼を決定しました。

五十七回目と、とてつもない歴史を刻み、数多くの研究発表及び意見交換などの場となり林業技術の共有、向上等に貢献してきた本シンポジウムの役割はとてつもないものがあります。会長県が担う労務量は多大なものがあり、重責を担うことになりましたが、今回のシンポジウムにおける林業研究者の熱量に触れ、生産サイクルが開発には多くの関係者の繋がりが特に大切であることを痛感し、本協議会及びシンポジウムを維持することの重要性を再認識しました。

は半信半疑の状態、その後は覚悟を持って周到に準備を進めました。

第二、三回の役員会はメールで行い、第二回（九月）ではテーマ『新しい林業

第1回役員会出席者

役職	ブロック等	機関名	職名	備考		
会長	東北	宮城県林業技術総合センター	所長			
副会長	関東	茨城県林業技術センター	センター長			
	中国	山口県農林総合技術センター	林業技術研究室長	代理		
委員	学識経験者	林野庁森林整備部研究指導課	首席研究企画官			
		国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所	研究管理科長			
	北海道	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 林木育種センター	育種企画課長			
		地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部 林業試験場	森林研究本部長兼林業試験場長			
		山形県森林研究研修センター	所長	欠席		
		福島県林業研究センター	所長			
		群馬県林業試験場	場長			
		長野県林業総合センター	所長	Web		
		愛知県森林・林業技術センター	所長			
		福井県総合グリーンセンター	所長			
		関西Ⅰ	兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター	所長		
		関西Ⅱ	兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター	所長		
		九州	愛媛県農林水産研究所林業研究センター	センター長		
			大分県農林水産研究指導センター林業研究部	部長	Web	
宮崎県木材利用技術センター	所長					
監事	四国	香川県森林センター	所長			
	九州	福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター	センター長			
事務局		宮城県林業技術総合センター	企画管理部長外			

（林業技術総合センター）

あつまれ！みやぎの  
森林人！津山町森林組合  
おおみや まい 麻衣さん

今回ご紹介する方は、津山町森林組合森林整備課業務係の大宮麻衣さんです。大宮さんは、林業とは無縁の仕事から、令和二年に現在の職場へ転職されました。年少から小学校三年生までの三人の子どもを育てながら、事務仕事や現場調査など幅広い仕事に従事されています。

### 1 現在の業務

補助金申請のほか、施業図や森林経営計画の作成、現地調査など、様々な業務に携わっています。「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」のスマート林業研修や森林経営管理技術者研修を受講し、ドローンによる現地調査もできるようになりました。

カレッジでは、最初は知らない人ばかりでしたが、年齢が近い人も多く、だんだんと



### 2 現在の職場勤務のきっかけ

実家の近くに登米町森林組合があり、森林組合は身近な存在でした。求人を見つけて、やってみたいと思ったのがきっかけです。

### 3 実際に働いてみて

事務仕事に現場にと、業務量はありますが、身体を動かすのも好きですし、毎日達成感があり、楽しいです。

### 4 子育てとの両立について

現場調査での急な斜面や藪漕ぎは大変ですが、やりきった後は気分がスツとします。子どもはまだ小さく、風邪などで急な休みをもらうこともありませんが、職場の方々は嫌な顔一つせず休ませてくれます。土日や祝日も休みのため、とても働きやすいです。

### 5 今後の抱負

森林施業プランナーの資格を取ることが今の目標です。また、これからさらに経験を積んで、いずれば作業員の方々への現場指導もできるようになりたいと思っています。

### 6 プライベート(趣味など)

十年先も、楽しく元気に働いていきたいと思っています！  
休みの日はヒップホップやレゲエなどの音楽を聴きながら、子どもとドライブをしています。

### 7 これからの林業について

ただ、乱暴な歌詞を子どもが口ずさむのが少し心配です。もっとオープンで、気軽に入り込みやすい業界になったら良いな、と思っています。



津山町森林組合のみなさん

### 取材後記

今回の取材に当たって、同組合の森林整備課長であり、大宮さんの指導者でもある佐々木寿光さんにも同席いただきました。取材に応じる大宮さんを笑顔で見守る佐々木さん、「採用するに当たり、女性であること、小さいお子さんがいることはマイナスではなかったですか？」と伺うと、「子どもはいつまでも小さいわけではありませんから。しばらくは急な休みがあることを理解した上で採用しています。一人前になるまでに十年かかる仕事です。目先のことではなく、良い人材をできるだけ早く採用し、育てていくことが大切だと考えています。」とお話いただきました。

また、同組合では、個人と協定を結ぶなどして森林経営計画を一つにまとめ、津山町のほとんどの森林の経営計画を立てており、大宮さんもその作業に当たっているとのことでした。

組合の未来を見据え、人材育成や資源・事業量の確保に取り組む佐々木さんと、その姿を目標とする大宮さん、二人の笑顔が印象的でした。

(林業振興課)

# 集 みやぎ森林・林業 未来創造カレッジだより

## カレッジ受講生の声



**あだち かい 足立 快さん**  
(宮城中央森林組合)  
令和三年入組。業務部森林事業課にて主に素材生産業務に従事。

「森林経営管理技術者養成研修」を、令和四年から二か年かけて修了しました。異業種から転職して、必要な知識も経験も不足したまま日々の業務にあたることに焦りを覚えていたので、この研修へ参加できたことは幸運でありました。

印象深い点を三つ挙げます。

一つ目は、林業・木材産業を川上から川下まで全て見学できたことです。苗木栽培の現場に始まり、植林地、素材生産現場、木材市場に最後は合板工場や製材所まで、自分の業務がこの流れのどこを担っているのか肌で再確認できました。

二つ目は、講師の先生方が大変豪華であることです。補助金等の制度や法令関係については、実務に携わる県職員の方々から直接ご指導を受けることができず。また特別講義では、全国から第一線で活躍されている方々が招かれます。皆さん立場も様々で、伝統ある大林家、新進気鋭の若手経営者、専門の異なる大学教授の方々等、最前線の熱量と情報に触れ、自分の視野が大きく広がったと感じます。

三つ目は、同期の受講生との交流です。グループワークも多く、事業体の垣根を超えて交友を深めることができました。

研修を振り返って改めて思うのは、森林経営に必要な知見は本当に多岐にわたるといえることです。法令や制度、生態系としての森林への理解、現場の安全管理、ICT等の最新技術への順応等、求められる能力の多さに目が回りそうになります。同時に一人では決してできない仕事だとも実感します。この研修を受けるに担当業務以外への理解も深まるので、現場技能者も事務職の方

も、経験年数の少ない林業関係者の方には特に受講をお勧めします。

宮城の林業に携わる人間として、カレッジでの学びを生かし、今後も広く深く能力を磨き続け、所属組織はもちろん、他の林業事業者や異業種の方々とも協力して、三方よしの森林経営に努めてまいります。



**ししど のりゆき 栄戸 紀之さん**  
(有限会社栄戸材木店)  
令和五年九月から代表取締役として製材業を継承。

大崎市岩出山で製材、木材販売を営む有限会社栄戸材木店にて、昨年より代表として従事しております。

先代の頃は造作材の受注製材を主にやっておりましたが、私が入社した平成に入ったあたりから住宅様式や商流の変化が年々激しくなり、常に新たに出来ることを模索しながら事業を継承してまいりました。

そんな中で県の方からカレッジ開講の話聞き、令和三年度の先行講座「広葉樹ビジネス講座」を受講す

ることにしました。受講した理由として、今まで広葉樹は住宅の床の間や座卓用の一枚板のごく限られた用途でしか扱ったことが無く、知識が乏しい中で、カリキュラムが生態から製材工場の視察、家具工房での木工ワークショップ、他県への視察研修等の幅広い内容で、広葉樹を知る機会になると考え、受講に至りました。

受講した感想は、あっという間に過ぎた二年間だったということですが。それは講座が多岐にわたる内容で常に新鮮だったことと、順を追うごとに内容が高度になり、段階的に知識がついていく実感を得たからだと思います。次に受講している方々がそれぞれ真剣に講座に向き合っている姿に刺激をもらったことです。今まで仕事で会ったことがない職業や経歴の方々から毎回新しい気づきを得られました。

幸運なことに受講の甲斐もあり、事業の方でも年々広葉樹を利用する頻度が高まっております。また令和五年度から「広葉樹ビジネス実践講座」に参加し、講座の中で新たな事業の活路を検討し、実践しているところ。今後は事業を安定できるような、新たな課題へ挑戦し、時には講座で出会った方々の力を借りながら「三方よし」更には「四方よし」を目指して日々チャレンジしてまいります。

## 令和六年度の研修内容

当カレッジは、宮城の森林・林業の未来を共に創り上げる人材育成の交流拠点として林業技術総合センターに本拠を置き、開校三年目を迎えます。令和六年度の研修を御紹介いたします。

### 特色

みやぎ森林・林業未来創造機構が運営母体となって各研修実施機関が連携し、機構会員の協力の下に森林・林業の基礎からキャリアアップまでを体系的に研修できる場を提供します。

林業志望の若者、現場技能の向上や森林管理・事業経営の高度化、森林ビジネスを目指す方々などのニーズに応えることを基本に置き、県内外のトップランナーによる講義をはじめ、実習や課題研究ワークショップなど実践重視の研修を行います。研修は以下の四コースから構成し、自分のレベルや目的に応じて研修を選択し受講できるようにしています。

### 研修体系

#### A 林業トライコース

林業への就業を考えている方向け

のコースで、就業者の体験談を聞くガイダンスや林業の基礎を学ぶ就業支援講習等を行い、合同会社説明会で事業者とのマッチングの機会を提供します。

#### B テクノワーカー（林業技能者）コース

林業技能者のコースで、就業して間もない方を二通り作業ができる技能者に養成するクラスから、リーダー養成、指導者のクラスとステップアップしながら、安全と作業の効率化に主眼を置いて知識や技術の



習得、資格取得を進めます。

#### C 森林管理・事業経営コース

森林管理や事業者運営を担う方のコースで、入門から事業管理者、経営者クラスと三段階のステージに応じたスキルの習得を進めます。若手森林経営管理技術者の養成やICTを活用した新しい林業に対応できる人材の育成に力を入れていきます。

#### D 森林ビジネスコース

広葉樹と育林をテーマにビジネス展開を研修します。既存事業の拡大や起業を目指す事業者や新たな視

点で山の価値を見出したい異業種の方の参加を歓迎します。

### 研修の受講方法

令和六年度に実施する各研修の受講生を次のような流れで募集しています。

各研修の内容や申込手続等については、ホームページ（みやぎ森林・林業未来創造カレッジで検索）に掲載しています。自分の目的や、仕事の都合に合わせて、御希望の研修を選択して受講できますので、活用に向け、ぜひ御検討ください。

#### ① 研修計画の発表（二月中旬）

令和六年度に予定している全ての研修を一覧できる形でホームページに掲載しています。林業事業者等の関係者には直接お知らせしています。

#### ② 受講申込予備登録（三月下旬）

各研修の受講希望者を把握し円滑に研修を進めていくため、予備登録申請を行っていただきます（①の発表の際に案内）。

なお、定員を上回る申請があった場合は、申請者に連絡の上、登録順位や必要度合い等を考慮し調整します。また、必要に応じて本人の学びたい内容を確認し研修のマッチングを図ります。事前の相談にも応じて

います。

※一般を対象にした研修や「緑の雇用研修」、「林業教室」は対象外。各実施者から手続きをお知らせします。

#### ③ 各研修の受講申込・受講決定

各研修の実施者から予備登録者に日程等の詳細と研修受講申込について連絡します。カレッジのホームページ等により受講申込みいただき、受講を決定します。なお、予備登録終了後も申込みを受け付けますので、事務局又はホームページで募集状況を確認願います。

#### ④ 令和六年度入講式・記念講演

普段の仕事や今後の受講に役立てていただくとともに、受講生の交流を図るため、受講決定者や予備登録者が一堂に会する入講式と記念講演を開催します（五月中旬予定）。

### 問合せ先

みやぎ森林・林業未来創造機構 事務局

宮城県林業技術総合センター

電話 〇二一三四五―二八八七

FAX 〇二一三四五―五三七七

メール [morimirai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:morimirai@pref.miyagi.lg.jp)

<https://miyagi-morimirai.jp>

（みやぎ森林・林業未来創造機構 事務局・林業技術総合センター）

**森林環境譲与税を活用した森林  
経営管理制度の取組状況について**

森林は、木材などの生産に加え、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止など、さまざまな公益的機能を有しており、豊かな森林を維持するためには、森林を適切に整備し、管理していくことが必要です。

しかし、近年、林業の採算性の低下や担い手不足、所有者が不明な森林の顕在化などにより、適切な整備や管理が行われていない森林が増えています。

そのため、森林整備などに必要な新たな財源として、「森林環境譲与税」が令和元年度に創設され、所有者自らが森林を管理できない場合に、市町村が森林の経営管理の委託を受ける「森林経営管理制度」がスタートしました。この制度は、経営に適した森林については林業経営者に再委託し、自然的条件などが厳しく、林業経営に適さない森林については市町村が管理することで、健全な森林の維持につなげるものです。

森林環境譲与税を活用し、市町村では、市町村森林経営管理

事業による森林の整備のほか、木材利用の促進や普及啓発などにも取り組んでいます。



伐採作業により適正に整備された森林



県産材を活用した赤ちゃんの誕生記念品

また、県では、森林経営管理制度を担う市町村のための相談窓口として、宮城県市町村森林経営管理サポートセンターを設置し、技術的な助言や研修会を行うほか、支援が必要な市町村へは、職員が出向き伴走支援に取り組んでいます。さらに、みやぎ森林・林業未来創造カレッジや関係団体と連携し、森林整備を支える人材の育成にも取り組み、制度を推進しています。



市町村担当職員向け研修(森林現地調査の様子)



林業技能者の養成

(林業振興課)

**企業と連携した「木育」の推進**

県では、イオンモール新利府北館と連携し、令和五年七月から令和六年二月まで、計六回の「木育」イベントを実施しました。木材を有効利用することにより、「伐る→使う→植える→育てる」という森林のサイクルがうまく循環し、林業の仕事も元気になり、森林の持っているさまざまな機能も十分に発揮されるようになっています。

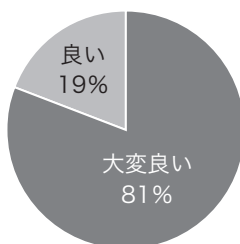
これらのことを伝えるため、関係団体と協力し、「木育」イベントを実施し、延べ三百人以上の



「木育」ワークショップの様子

県民の方に参加いただきました。参加者からは、「木に触れる良さを感じました」、「これから入りたいと思いました」などの声が聞かれたほか、実施したアンケートでも、全員の方が「木育」の推進について「良い」という回答でした。

「木育」を推進する  
ことについて、どのよう  
に思われますか？



県内の森林資源は、戦後に造成された人工林資源が豊富にあり、今後、本格的な利用期を迎えることから、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を固定した森林資源を木材として適切に利用するとともに、伐採した跡地には再造林を行い、次の世代を担う森林づくりを進めることが喫緊の課題となっています。

県では、今後も、県産木材や木製品との触れ合いを通じ、森林の持っている様々な機能や林業の魅力を伝えていきます。

(林業振興課)



**令和四年三月福島県沖地震で被災した山腹が復旧しました**

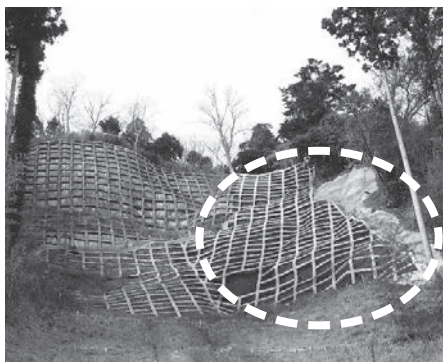
三陸自動車道を鳴瀬奥松島インターで降り、鳴瀬川を渡って国道四五号を石巻方面に進むとまもなく、左手に丘陵地が見えてきます。この丘陵地の東側、東松島市上沢目地区において令和四年三月の福島県沖地震により山腹崩壊が発生しました。

地震の規模はマグニチュード七・三で、東松島市では震度六弱を観測し、約二百トンの巨石を含む土砂崩壊の発生とともに、落石防護柵や法枠工が損壊し、周辺の道路、民家等に被害が拡大するおそれがあることから、県では治山事業により災害復旧工事を行うこととしました。

上沢目地区では、昭和五十三年宮城県沖地震、平成十五年宮城県北部連続地震、令和元年東日本台風でも山腹崩壊が発生し、法枠工や土留工などで復旧してきました。また、平成十六年度からの五カ年計画で地域防災対策総合治山事業により複数の荒廃山腹の整備も実施しており、これまでに施工された面積

は約二万七千平方メートルにもなり、山腹の半分近くが法枠工などで覆われています。

今回の復旧工事では、モルタル吹付工による山腹の復旧八百六十平方メートルのほか、法枠工の再設置四百九十平方メートルや落石防護柵再設置三十六メートルを行いました。着工は令和四年八月でしたが、山腹全体が国の史跡に指定されていることから施工上の制約もあり、二度の工期延期を経て令和六年二月によりやく完成しました。施工箇所は、山地災害危険地区に指定されており、今後も異常気象や大きな地震の発生の際には被害調査を迅速に行うなど安全確保に努めていきます。



法枠工の完成状況

(東部地方振興事務所)

**「令和元年東日本台風災害」による丸森町内における林道施設災害復旧状況について**

「令和元年東日本台風」は、県内各地に多大な被害を与えました。その中でも特に被害が甚大だった丸森町内における林道施設災害の復旧状況についてお知らせします。

令和元年東日本台風により、大河原管内の林道施設は、三十九路線、百一十箇所に及ぶ被害が発生しました。そのうち丸森町内では、三十路線九十八箇所もの被害があったため、県では丸森町を支援しながら早期の復旧に取り組んでいます。

林道は多面的機能を有する森林の適正な整備、効率的な林業経営を図るために必要不可欠な施設であり、かつ、地域住民の生活道として重要な役割も併せて担っており、早期の復旧が地元から望まれています。

復旧工事に当たっては、現地の制約や土質変化等困難な状況を乗り越えながら復旧工事が実施されています。

令和四年度末までに二十六路線、九十二箇所について災害復

旧工事が完了し、残り四路線、五箇所(二箇所は廃止)についても早期完了に向けて着実に工事が進んでいます。

地域の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、生活基盤となる林道施設の早期復旧について支援してまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いします。



林道「大谷地線」被災状況



林道「大谷地線」復旧状況



林道「枯木線」復旧状況

(大河原地方振興事務所)

## しいたけ原木林における萌芽枝等の放射性物質濃度推移に関する調査・研究について

県林業技術総合センターでは、福島原発の放射性物質拡散事故により、甚大な被害を受けた県内のしいたけ原木林の対応に関する調査・研究を平成二十六年度から行っています。主な内容は、放射性物質の被害を受けたコナラ林を伐採した後、切り株から発生する「萌芽枝」がどの程度の汚染状況であるか、実際に発生した萌芽枝を採取し、放射性物質濃度を測定することで、その推移を把握し、成長した萌芽枝が将来的にしいたけ原木として利用可能かどうかを検討するものです。

具体的な方法は、県内二十五箇所を設定した調査地において、樹木の生育が停止する秋・冬季に検体の採取を行います。対象としているのは萌芽枝の他に着葉や周辺土壌などで、併せて空間線量率の測定も行っています。

これまでの調査で、伐採後に発生する萌芽枝の放射性物質濃度は、一年目で高い値を示すものの、その後減少し、三年目頃

から横ばいで推移していく傾向が多く、調査箇所で見られています。

また、様々な場面で汚染の目安として用いられている空間線量率と萌芽枝の放射性物質濃度の相関関係は、あまり高い値を示していませんが、一方で、萌芽枝とその着葉には非常に高い相関関係が見られています。このことは、葉の濃度を測定することで、萌芽枝の濃度を非破壊的に推定できることを示唆しており、現在、その推定式の検討を行っています。

今後も継続して調査を行い、県内のしいたけ原木林の利用再開に向けた一助となるよう、研究・分析を進めていきます。



萌芽枝調査の様子

(林業技術総合センター)

## 蕪栗沼地域における愛鳥活動の推進について

蕪栗沼は、大崎市田尻の平野部に広がる低地性湿地で、平成十七年にラムサール条約湿地に登録され、国の天然記念物で県鳥でもあるマガンやオオヒシクイの越冬地として、伊豆沼・内沼とともに全国的に有名な野鳥観察スポットとなっています。

このような恵まれた自然環境の近傍にある大崎市立田尻小学校では、環境教育の一環として、蕪栗沼の生き物観察や、季節毎の自然との触れ合いなどの活動に取り組んでおり、県では令和四年度から愛鳥モデル推進校に指定し、継続的に愛鳥教室を開催しながら取組を支援しています。

昨年九月に実施した授業では、四年生十九名を対象に身近に生息する野鳥の写真などを使用した講話や、鳴き声クイズなどを実施したところ、活発な意見が出され、日頃の野鳥への関心の高さが感じられました。

また、十一月には六年生二十二名を対象に「NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ」の戸島氏

を講師に迎え、蕪栗沼地域の野鳥の特徴について講話をいただいたところ、子供たちからは「蕪栗沼へのマガンなどの飛来数の多さに驚いた」、「鳥の骨格や体のつくりを知れて良かった」などの感想が寄せられました。講話後に実施した校庭での野鳥観察では、ツグミやセグロセキレイなど、多くの野鳥が確認され、改めて自分たちが生活している地域の自然の豊かさを実感しているようでした。

来年度以降も愛鳥教室などの活動を通じて、地域の子供たちの関心が深まるよう、引き続き支援していきます。



鳴き声クイズに耳を傾ける児童→

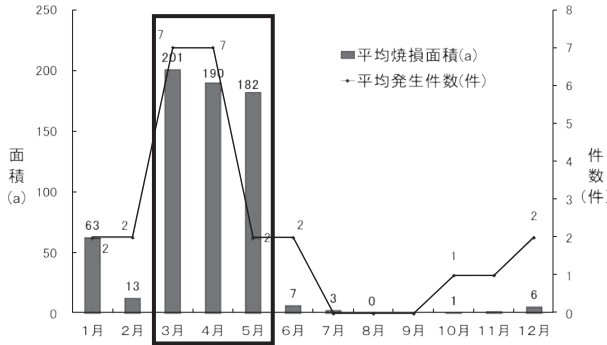


←野鳥観察の様子

(北部地方振興事務所)

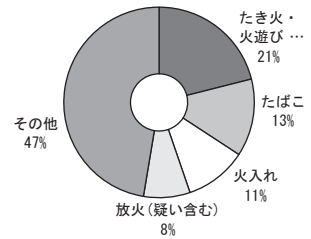
# 春の山火事に御注意を！

春先は空気が乾燥し、一年のうちで最も山火事が発生しやすい時期となります。平成二十九年から五年間の平均では、焼損面積、発生件数とも三月から五月にかけての三か月に集中していることがわかります(図一)。



(図1) 月別発生状況 (平成29年から令和3年までの平均)

このため、県では、毎年三月一日から五月末まで山火事予防運動を実施しています。山火事は主に、野焼きを含むたき火や火入れからの延焼、火遊び、た



(図2) 原因別発生割合 (平成30年から令和4年までの平均)

- ① 強風時や乾燥時、枯れ草等のある場所ではたき火などをしていない
  - ② 火気使用中はその場を離れず完全に消火したことを確認する
  - ③ たばこの吸いからは必ず消す(投げ捨てない)
  - ④ 火遊びはしない
- このようなことを一人一人が気をつけることで山火事を防ぐことができます。また、最近では、アウトドアブームによりキャンプを楽しむむ人が増えていますが、たき火の後始末にも注意する必要があります。
- 宮城の美しい森林を守るため、火の取扱いは十分気を付けていただくよう、御協力をお願いいたします。

(森林整備課)

木質バイオマスを含む再エネを活用し、**地域課題の解決**を目指す方の事業費を支援します！

お住まいの地域で、高齢化や人口流出などの課題を抱えていませんか。このような地域課題を解決するために、木質バイオマス資源を含む再生可能エネルギーを活用できるかもしれません。

県では、地域課題の解決を目的とした再生可能エネルギーを活用した事業の立上げに向けて活動する団体に対し、勉強会の実施から設備導入までを、段階的に支援しています。

例えば、木質バイオマスボイラーを用いた農業用温室の自動温度管理を導入することで、農業人材の不足という課題の解決が見込めます。

また、木材の乾燥に太陽熱や木質バイオマスボイラーを活用すれば、燃料費の削減や林業におけるカーボンニュートラル、端材の地産地消に繋がります。

補助率や補助上限額は下の図に記載のとおりで、補助金の申

請期間は令和六年四月から五月を予定しています。皆様の御活用をお待ちしております。

補助メニュー	補助メニューの概要	申請する事業の例	補助上限額	補助率
STEP 3	事業化を目的とした設備導入や試験用設備の設置を伴う詳細な調査費を補助するもの。	林業の活性化、農業の脱炭素化による付加価値向上、環境教育のため、農業ハウスの加温のための木質バイオマスボイラーを設置する。	1,000万円	2/3
STEP 2	資源の賦存量やエネルギー需要など事業の実現可能性を調査するための委託費等を補助するもの。	木質エネルギー利用によって地域にお金が循環及び流入する仕組みを構築するため、燃料の安定供給体制等の調査、及び木質バイオマスエネルギー利活用事業計画の策定を実施する。	300万円	10/10
STEP 1	地域資源を把握しエネルギーとして活用するための検討組織に対し、先進地視察や勉強会等の活動費等を補助するもの。	地域の生活と経済基盤の立て直しや、エネルギーの自立分散体制の構築のために、地域資源を活用してどのような取り組みができるかを検討するため、他地域での先行事例に関する勉強会を開催する。	30万円	10/10



(再生可能エネルギー室 地域共生推進班)



大会テーマ・シンボルマーク・ポスター原画決定！

令和七年秋に本県で開催する第四十八回全国育樹祭の大会テーマ・シンボルマーク・ポスター原画について、令和五年六月から募集したところ、県内外から多数の応募をいただきました。

応募作品について、審査会の審議を経て、最優秀賞作品を決定しました。これらの作品は、今後、第四十八回全国育樹祭の広報等に広く活用していきます。

このほか、優秀賞作品などの入賞作品については、全国育樹祭推進室のホームページで公開しています。

【最優秀賞受賞作品】  
大会テーマ

(応募総数二三四点)

次世代へ

みどりのかけ橋

森づくり

作者・福島進(埼玉県本庄市)  
作品説明・

森をキーワードに次の世につ

なぐかけ橋をアピール

シンボルマーク

(応募総数一六五点)



作者・濱 千尋(仙台市)

作品説明・

緑を育て守る様子をキャラクターで表現しました。足は土、手は水をイメージしています。

ひらがなの「み」を使って親しみやすいユニークな表情にしました。「み」には、宮城のほか、みどり、みんな、未来など育樹祭開催に向けた思いを込めています。

ポスター原画

(応募総数二〇一点)



題：植樹をしたよ

作者・野上 愛馨

(宮城教育大学附属小学校二年)

作品説明・

植樹に参加したときの絵をかきました。

【記念行事を募集します】

実行委員会では、全国育樹祭の開催を県民へ広く周知し、開催気運を盛り上げるために、森林保全や緑化推進等の行事を「第四十八回全国育樹祭記念行事」として募集します。

【記念行事の対象】

県内で開催する森林・林業、緑化・環境保護、木材利用等の教育啓発やふれあいに関するイベントなど

【記念行事での育樹祭PR】

記念行事の承認を得た場合は、次のいずれかの方法で育樹祭のPRを行っていただきます。

◆行事名に「第四十八回全国育樹祭記念行事」の文言を記載

◆行事のポスターやチラシ等に育樹祭ロゴマーク等を表示

◆行事において、育樹祭のPRグッズ等の掲出

【記念行事への物品提供等】

記念行事の承認を受けた行事には、実行委員会から次のとおり、物品提供等を行います。

◆記念行事における育樹祭ロゴマーク等の使用

◆育樹祭のPRチラシやノベルティの提供

◆育樹祭のPRグッズ等の貸出

◆育樹祭公式ホームページにおける記念行事の掲載

◆育樹祭開催記念誌への記念行事の掲載

【募集手続き】

記念行事の募集手続きについては、全国育樹祭推進室のホームページを御確認ください。



全国育樹祭推進室ホームページ

本県初開催となる全国育樹祭の成功に向け、育樹祭のPR、開催気運醸成に御協力をお願いします。



みやぎ2025

第48回 全国育樹祭

次世代へ みどりのかけ橋 森づくり

第48回全国育樹祭  
ロゴマーク

(全国育樹祭実行委員会事務局  
／全国育樹祭推進室)

## 木材市況の動向

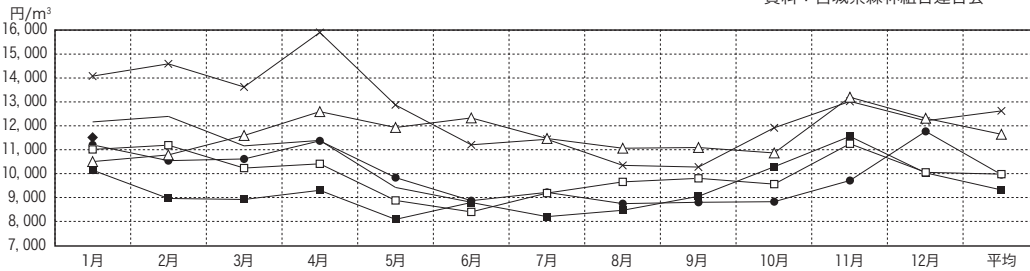
表1 各共販所別木材市況(令和6年1月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m <sup>3</sup> )				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
ス	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~32	13,500	—	14,500	14,000	—
ギ	4.00	10~13直曲	—	12,360	12,210	12,750	—
		14~18直曲	—	12,230	12,210	12,650	—
		20~22	—	12,170	13,500	13,650	—
		24~34	—	14,000	14,000	14,000	—
		36~	—	—	14,000	14,000	—

概況

素材動向  
・素材価格は前年同時期より大幅に値を下げている。

資料: 宮城県森林組合連合会



素材: 県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

## 特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010	991	982	948	983	1,012	1,035	976	1,002	1,015	1,013	1,038
令和5年	1,031	968	967	966	996	1,038	1,019	996	1,011	1,016	1,006	1,068
令和6年	1,072											

概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円~1,000円台と、震災前の平均価格を上回っている。  
・令和5年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年と同水準で推移し、年平均単価は前年同様1,000円を上回った。

資料: 仙台中央卸売市場

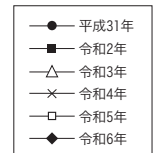
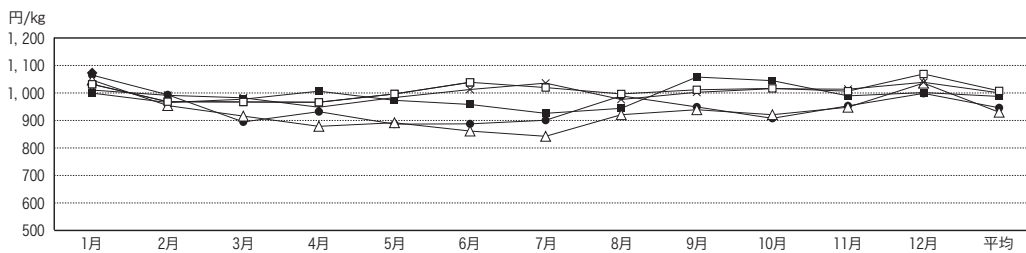


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和5年11月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和5年11月(戸)	1,282	918	294	71.6
令和4年11月(戸)	1,647	1,181	358	71.7
前年同月比(%)	77.8	77.7	82.1	—
令和4年12月~令和5年11月(戸)	16,267	11,776	3,903	72.4
令和3年12月~令和4年11月(戸)	17,791	11,892	4,491	66.8
前年同期比(%)	91.4	99.0	86.9	—


概況

新設住宅着工戸数

・11月の新設住宅計は前年同月比で22.2%減少し、前年同期比では8.2%減となった。  
・構造別では木造が前年同月比で22.3%減少し、前年同期比で1.6%減となり、木造率は前年同月比で0.1ポイント減の71.6%となった。

資料: 住宅着工統計

国産材(生産販売)、木材チップ生産  
製材業、伐出造林請負



## 宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871  
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号  
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山  
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山  
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社  
株式会社宮城環境保全研究所



## 坂元植林株式会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

サカモトグループ



地域との共生  
「めぐりめぐみ」をテーマに  
私たちは自然を愛し、  
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12  
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252  
www.web-sakamoto.co.jp

## 宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘  
専務理事 小澤 幸三  
理事 亀山 征弘  
理事 梶原 領太  
監事 阿部 貢也  
監事 石田 竜也

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

## 宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀  
副会長 永井 政雄  
副会長 菅原 正義  
副会長 佐藤 裕康  
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる  
奥地水源地域の森林整備

## 水源林造成事業

### 宮城県水源林造林協議会


〒980-0011  
仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
宮城県森林組合会館内  
TEL (022) 266-7121

## 一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門


〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号  
TEL (0229) 22-1281  
FAX (0229) 22-1281  
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械



## 筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261 〒980-0013  
📄 (022)265-9231 仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ



# 木×SDGs

Wise use of woods from みやぎ!

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しています。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える木材を上手に利用すること(ワイズユース)は、温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎにはJAS製材品など優れた品質の木材や高度な加工技術があります。どうぞ、家づくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を実感してください。私たちがお手伝いいたします。

### 宮城県木材協同組合の取組例

JAS製材品の  
利用拡大



宮城県産材  
利用拡大




宮城県木材協同組合 理事長 米澤 光秀

tel: 022(233)2883 <https://miyagi-wood.jp>

令和5年度JAS構造材実証支援事業

森林は大切な資源です  
森林整備を通して  
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社  
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172  
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

# 緑の募金

にご協力ください!

令和6年度目標額

## 45,000,000円

令和6年緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」～もりもり 森林を守る 森林を活かす～



## 公益社団法人 宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階  
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)<sup>もりちから</sup>等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

## 農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

## JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166      仙北地区木材センター 0229-72-1877  
大衡総合センター 022-345-2205      津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は      ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ、  
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

## 宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号  
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

## 林業の<sup>今</sup>を伝える月刊誌 令和6年度の購読申込受付開始!!



**GR 現代林業**  
A5判 80頁  
年間購読料 5,400円(送料込み)



**林業新知識**  
B5判 24頁  
年間購読料 3,000円(送料込み)



**山林**  
A5判 66頁  
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

### 宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
宮城県仙台合同庁舎10階

**TEL 022-301-7501**  
**FAX 022-301-7502**

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号  
編集協力 宮城県水産林政部林業振興課

☎022-222-3011